

1. 活動のテーマ

<テーマ> 音

- ・自分の音を表現する楽しさを味わう。
- ・活動を通してやってみたいことを見つける。

<テーマの設定理由>

友達と同じ意見になってしまったり、真似したりする行動をすることが多い為、自分のオリジナルな楽器を作る活動を行い、自由に表現する喜びを味わって欲しい。またその日によって注目する音を決め、子どもたちに家庭でその音に注目して過ごしてもらい、親子での会話のきっかけを作り、翌日自分の聞いてきた音について発表し、同じ音でも聞く人や、聞く時間、聞く場所によって聞こえ方が違うことを知って欲しい。このような活動を行う中で自分の心地よい音を見つけていってくれたら良いという思いから設定を行った。

2. 活動スケジュール

8月第3週 貝の中の音を聞く 缶の中に何個貝が入っているのかをクイズし音の大きさから数を推理する力を養う

8月第4週 水の音にはどんな音があるか（聞こえた音を言葉で表現する）

8月第5週 音屋さん（作った音を聞いてもらう）

9月第1週 糸電話を作る 音を絵で表現する（空き缶が転がり落ちる音、ビニール袋をこする音）オーケストラの音を聞く

9月第2週 園庭で見つけた音 体の中から聞こえた音 生活の中で聞こえた音 給食を食べている音に注目する

9月第3週 シンバルや太鼓、ウィンドチャイムの音を波形にする

9月第4週 自分のオリジナルな楽器を作る



3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

水槽を準備して、ピッチャーから水を注ぐ速度や量を変えたり、石を落としたりして音の変化を聞き分ける環境を作った。音屋さんでは、作りたい音を決めてから、廃材や自然物、玩具などを用意した中からそれらしく聞こえる音を組み合わせることで作成した。また、夏祭りで店の一つとして出店し、異年齢の子どもたちにも聞いてもらう機会を設けた。音を絵で表現する際には、一人一枚画用紙を用意して、空き缶が転がる音、ビニール袋をこする音を聞いてもらい、子どもたちに音を絵で表現した。それを一冊の本としてまとめて、子どもたちと共有した。子どもたちの手の届く場所に置き、自由に見ることができるように設定をした。

参考にした絵本 (ぼたぼたぼぶん) (おとをつくろう) (からだのなかでドウンドウンドウン) (おいしいおと) (なくむしずかん) (しずかにしずかに)



4. 探究活動の実践

<活動の内容>

音屋さんの活動では、作りたい音を決めてから音作りを行った。ポップコーンが弾ける音を作成する際には、プラスチック容器の上に石を落としてみたが、カンカンになってしまい、ポップコーンの音らしく聞こえなかったので、別の物でも試してみて、貝殻の軽さがちょうどよいということに気がついた。かみなりの音を作る際には、連日ゲリラ豪雨が続き、イメージがしやすかった。「なにかが落ちる音がするから落としたい」「コロコロ転がるものならごろごろ聞こえるかも」「かみなりさまは太鼓をたたいているのを絵本で見たからたたいた音を入れたい」と意見を交換しながら作る姿があった。活動を通して自分の意見を活発に発表し、それが音として表現され、友達と共有できる喜びを感じることが出来ていた。そして異年齢児におとやさんとして、音を聞いてもらい「たしかにそう聞こえる」と言ってもらって自己肯定感が増したようにも感じた。



<活動中の子供の姿・声、子ども同士や保育者との関わり>

友達の心臓の音を交代で聞かせてもらおうと「トゥクトゥク」「ゴクゴク」「コロンコロン」と聞こえた音を表現することができた。友達の心臓に自分の耳をつける行為に少し照れてしまう子もいたが、友達同士や保育士とスキンシップをとれて、嬉しそうにしていた。普段生活していると聞こえない音を、周りを静かにして、耳をくっつけると聞こえる音があるということや心臓の音を知ることができた。また、子どもたちに、お家でどんな音が聞こえるか聞いてきてほしいと前日に声をかけて、翌日に発表してもらった。一日目は家の中で気になる音を聞いてきてもらった。お父さんのいびきが、「がーがー聞こえた」と一人の子が言うと、「僕のお父さんは、ぐわぐわ」「ごごって」という子もいて、いびきだけでも色々な音があることが分かった。また二日目は料理している時に聞こえた音を聞いてきてもらった。「トントントン」(野菜を切る音)「ジュー」(肉を焼く音)「チン」(レンジで温めた音)など聞いてきてくれた音を次々発表していた。友達の発表を聞いて、思い出した音を発表する姿が見られた。「この音は私にはこう聞こえた」と自分の聞こえた音を言葉にしていた。一日の課題を一点にすることで音を注意深く聞くことが出来た。



5. 振り返り

<振り返りによって得た保育者の気づき>

音の活動を行ったことにより、子どもたちが日常にある音に耳を澄ませ、音を言語化し友達や保育者に共有しようとする姿が見られるようになり、会話が弾むようになった。また、自分の作りたい音を作ろうと試行錯誤する姿が見られ、それを堂々と発表することができるようになった。また家庭にある材料で好きな音を作ってきて、友達に聞いてほしいと連日、制作したものを持ってくるようになった。その子の姿が他児にも影響し、何人もそれぞれ工夫し制作をしていた。活動を行った期間だけでなく、その後も音探しをし、似た音を見つけ嬉しそうに共有しあう姿が見られた。お遊戯会でも発表したいという子がいて、その活動を取り入れて劇を作り上げた。

